



# 4 保守ツールについて

添付のフロッピーディスクやCD-ROMに格納されている保守ツールの紹介と使用方法について説明します。

- ROM-DOSシステムディスク(→102ページ) .....ROM-DOSシステムディスクの使用方法について説明します。
- オフライン保守ユーティリティ(→105ページ) .....本装置専用の保守ユーティリティの使い方について説明します。
- システム診断(→109ページ) .....本装置専用の診断ユーティリティの使い方について説明します。
- システムマネージメント(→113ページ) .....CPUブレードに搭載されたシステム管理機能の設定について説明します。
- EXPRESSBUILDER(→116ページ) .....セットアップツール「EXPRESSBUILDER」について説明します。
- ESMPRO/DeploymentManagerをインストールしたサーバの環境設定(→123ページ) .....ESMPRO/DeploymentManagerを使ってネットワーク経由で運用・保守するための環境設定について説明します。

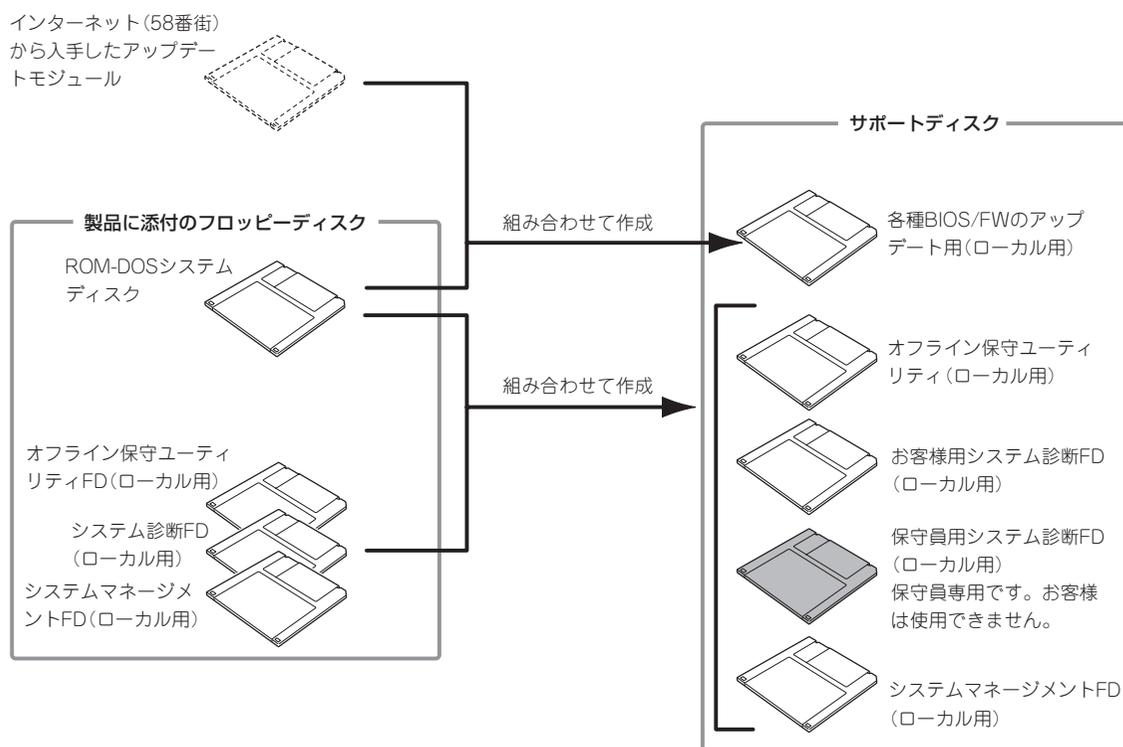
# ROM-DOSシステムディスク

「ROM-DOSシステムディスク」は、CPUブレードの保守や管理をするためのユーティリティディスク(サポートディスク)の作成や、CPUブレードの各種BIOS、またはファームウェア(FW)をアップグレードをするためのシステムディスクです。大切に保管してください。

## 概要

添付のフロッピーディスクに格納されているオフライン保守ユーティリティ、システム診断、システムマネージメントの各ユーティリティを実行するためには、ROM-DOSシステムディスクと添付の各ユーティリティのフロッピーディスクを使用して、サポートディスクを作成する必要があります。

サポートディスクを作成するためには、3.5インチ2HDの空きフロッピーディスクが必要です。必要枚数分を用意してください。



添付のフロッピーディスクは大切に保管しておいてください。

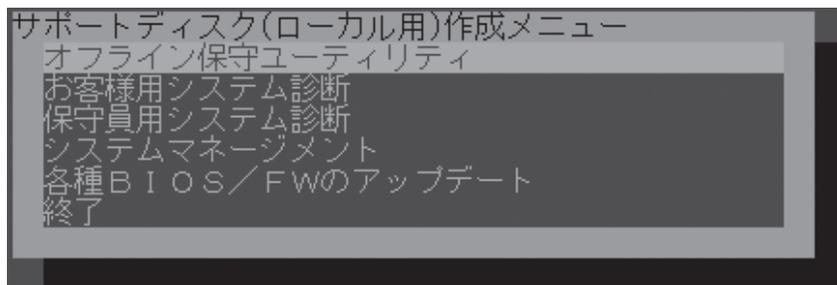
特に「ROM-DOSシステムディスク」は、添付のフロッピーディスクをそのまま使用すると破損などの可能性があるため、DOSのDISKCOPYコマンドを使用してコピーしたものを使用することをお勧めします。



上記サポートディスクは、CPUブレードに直接コンソール(USBキーボードやUSBフロッピーディスクドライブ、ディスプレイ装置)を直接接続して操作するときに使われます。

# サポートディスク(ローカル用)の作成

「ROM-DOSシステムディスク」をCPUブレードの外付けフロッピーディスクドライブ(USB接続)にセットして起動すると次に示す「サポートディスク(ローカル用)作成メニュー」が表示されます。このメニューから各種サポートディスクを作成します。



サポートディスクの作成時、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクをすでにセット済みの場合や、セットしたディスクのライトプロテクトを解除している場合でも、下記のメッセージが表示される場合があります。その場合は、<Enter>キーを押して再度画面の指示に従って操作を行ってください。

FDがライトプロテクトされているか、  
ドライブに挿入されていません。  
確認後、Enterキーを押してください  
確認:[Enter]

次にサポートディスク作成メニューにある項目について説明します。

## ● オフライン保守ユーティリティ

添付の「オフライン保守ユーティリティFD(ローカル用)」を使用してオフライン保守ユーティリティのサポートディスクを作成します。

空きフロッピーディスクを1枚用意してください。

サポートディスクを作成したら、作成したフロッピーディスクに「オフライン保守ユーティリティ(ローカル用)サポートディスク」と書いたラベルを貼り付けて大切に保管してください。

ESMPROが起動できないような障害が装置に起きた場合は、「オフライン保守ユーティリティ(ローカル用)サポートディスク」を使用して障害原因の確認ができます。

詳細は「オフライン保守ユーティリティ」(105ページ)を参照してください。

## ● お客様用システム診断

添付の「システム診断FD(ローカル用)」を使用してお客様用のシステム診断プログラムのサポートディスクを作成します。

空きフロッピーディスクを1枚用意してください。

サポートディスクを作成したら、作成したフロッピーディスクに「お客様用システム診断(ローカル用)サポートディスク」と書いたラベルを貼り付けてください。

「お客様用システム診断(ローカル用)サポートディスク」を使用して、各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査することができます。詳細は「システム診断」(109ページ)を参照してください。

## ● 保守員用システム診断

添付の「システム診断FD(ローカル用)」を使用して保守員用のシステム診断プログラムのサポートディスクを作成します。

保守員用のシステム診断プログラムは保守員が使用するユーティリティです。お客様は、作成・使用は行わないでください。

## ● システムマネージメント

添付の「システムマネージメントFD(ローカル用)」を使用してシステムマネージメント機能のサポートディスクを作成します。

空きフロッピーディスクを1枚用意してください。

サポートディスクを作成したら、作成したフロッピーディスクに「システムマネージメント(ローカル用)サポートディスク」と書いたラベルを貼り付けてください。

「システムマネージメント(ローカル用)サポートディスク」を使用して通報機能、リモート制御機能を使用するための設定を行うことができます。詳細は「システムマネージメント」(113ページ)を参照してください。

## ● 各種BIOS/FWのアップデート

Express5800シリーズのホームページ「58番街」で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、本装置のBIOSやファームウェア(FW)をアップデートする「各種BIOS/FWのアップデート(ローカル用)サポートディスク」を作成します。

58番街で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を格納したフロッピーディスクを用意してください。用意したフロッピーディスクに「各種BIOS/FWのアップデート(ローカル用)サポートディスク」と書いたラベルを貼り付けてください。

「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

『58番街』: <http://express5800.com/>

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートしてください。「README.TXT」はWindowsのメモ帳などで読むことができます。

## ● 終了

メニューを終了し、DOSコマンドプロンプトに戻ります。

# オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティは、CPUブレードの予防保守、障害解析を行うためのユーティリティです。ESMPROが起動できないような障害がCPUブレードに起きた場合は、オフライン保守ユーティリティを使って障害原因の確認ができます。

本装置では、以下のいずれかの方法によって、オフライン保守ユーティリティを起動します。

- CPUブレードに外付けフロッピーディスクドライブを接続して起動する場合  
「ローカルでの運用」を参照してください。
- LANを使ってネットワークから起動する場合  
「ESMPRO/DeploymentManagerでの運用」を参照してください。

## ローカルでの運用

外付けフロッピーディスクドライブを接続して起動する場合の方法について説明します。

### ● 必要なもの

オフライン保守ユーティリティをローカルで運用する場合には、以下を準備してください。

- － オフライン保守ユーティリティ(ローカル用)サポートディスク

オフライン保守ユーティリティ(ローカル用)サポートディスクは、装置に添付されている「ROM-DOSシステムディスク」と「オフライン保守ユーティリティFD(ローカル用)」を使って作成します。詳細は「ROM-DOSシステムディスク」(102ページ)を参照してください。

- － 外付けフロッピーディスクドライブ(USB接続)
- － USB接続キーボード
- － ディスプレイ

### ● 起動方法

オフライン保守ユーティリティ(ローカル用)サポートディスクを外付けフロッピーディスクドライブ(USB接続)にセットしてCPUブレードを再起動すると、フロッピーディスクからオフライン保守ユーティリティが起動します。

### ● 機能

オフライン保守ユーティリティを起動すると、以下の機能を実行できます。

- － IPMI情報の表示

IPMI(Intelligent Platform Management Interface)におけるシステムイベントログ(SEL)、センサ装置情報(SDR)、保守交換部品情報(FRU)の表示やバックアップをします。

本機能により、システムで起こった障害や各種イベントを調査し、交換部品を特定することができます。

— BIOSセットアップ情報の表示

BIOSの現在の設定値をテキストファイルへ出力します。

— システム情報の表示

プロセッサやBIOSなどに関する情報を表示したり、テキストファイルへ出力したりします。

— システム情報の管理

お客様の装置固有の情報や設定のバックアップ(退避)をします。バックアップをしておかないと、ボードの修理や交換の際に装置固有の情報や設定を復旧できなくなります。



システム情報のバックアップは、[システム情報の管理]から[退避]を選択します。以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。なお、リストア(復旧)は操作を熟知した保守員以外には行わないでください。

— 筐体識別

CPUブレードのAttentionランプが5秒間点滅します。複数台のCPUブレードが搭載されたシステムで、CPUブレードを識別するときに便利です。



フロッピーディスクにバックアップやテキストファイルを出力する際、フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットしているにも関わらず、「フロッピーディスクの準備ができていません」というメッセージが出る場合があります。また、フロッピーディスクを書き込み禁止状態にしていなくても関わらず、「フロッピーディスクが書き込み禁止状態です」というメッセージが出る場合があります。その場合にはリトライしてください。

# ESMPRO/DeploymentManagerでの運用

LANを使ってネットワークから起動する場合の方法について説明します。

オフライン保守ユーティリティの機能のうち、システム情報のバックアップ機能については、ESMPRO/DeploymentManager(以下、「DepMgr」と呼ぶ)を使ってネットワークから実行できます。なお、リストアについても同様の手順で実行できますが、操作を熟知した保守員以外はリストアを実行しないでください。また、システム情報のバックアップ/リストア以外のオフライン保守ユーティリティ機能(IPMI情報の表示など)をネットワークから実行したい時には、MWA(118ページ参照)を使用してください。

## ● 必要なもの

DepMgrを使ってシステム情報のバックアップを実行する場合には、以下を準備してください。

- システム情報のバックアップFD(DepMgr用)

システム情報のバックアップFD(DepMgr用)は本体に添付されている「EXPRESSBUILDER」の「マスターコントロールメニュー」と「ROM-DOSシステムディスク」を使って作成します。詳細は「サポートディスク(DepMgr用)の作成」(117ページ)を参照してください。

- ESMPRO/DeploymentManager(別売の有償ソフトウェア)

## ● 起動方法

以下に起動方法を示します。あらかじめDepMgrのユーザーズガイドを参照してDepMgrをインストールしておいてください。

1. 123ページの「ESMPRO/DeploymentManagerをインストールしたサーバの環境設定」を参照して、共有フォルダの作成などを行い環境設定をすませる。
2. DepMgrを起動する。
3. [ツール]メニューの[イメージビルダー起動]を選択し、[フロッピーディスクイメージの作成]を選択する。
4. イメージファイル名(任意)を入力し、システム情報のバックアップFD(DepMgr用)をフロッピーディスクドライブにセットする。  
イメージファイルの作成が行われます。
5. [シナリオ]メニューの[新規登録]を選択し、[HW設定]タブを選択する。
6. 手順4で作成したイメージファイル名を選択し、シナリオ名(任意)を入力する。  
シナリオが登録されます。
7. 対象となるCPUブレードを選択し、右クリックで表示されるメニューから[シナリオ割り当て]を選択する。
8. 手順6で登録したシナリオ名を選択し、シナリオを割り当てる。
9. 対象となるCPUブレードの電源をOFFにする。

10. 対象となるCPUブレードを選択し、右クリックで表示されるメニューから[シナリオ実行]を選択する。

自動的にCPUブレードが起動し、システム情報のバックアップが実行されます。約3分で終了します。

11. シナリオが終了したら、実行結果を確認する。

### ● 実行結果の確認

実行結果は、以下のフォルダに「backup.txt」として記録されます。内容を確認してください。最後に「OK： Normal End.」という行があれば正常終了です。

共有フォルダOFFTOOL¥CPUブレードのMACアドレス上位3バイト¥下位3バイト¥OFFUTL



対象となるCPUブレードのMACアドレスを確認するには、DepMgrのメインメニューで対象となるCPUブレードを選択し、右クリックで表示されるメニューから[プロパティ]を選択してください。

なお、上記フォルダに作られたバックアップファイル(\*.bin)は、そのまま大切に保管してください。ボードの修理や交換の際に、装置固有の情報や設定を復旧するために使用します。

# システム診断

「システム診断」はCPUブレードに対して各種診断を行います。  
以下の手順に従ってシステム診断を実行し、CPUブレードを診断してください。

システム診断には、次の項目があります。

- CPUブレードに取り付けられているメモリのチェック
- CPUキャッシュメモリのチェック
- システムとして使用されているハードディスクのチェック



ハードディスクのチェックでは、ディスクへの書き込みは行いません。

またシステム診断の方法には、直接CPUブレードに対して行う方法(以下、「ローカル」と呼ぶ)と、ESMPRO/DeploymentManagerを使用したネットワーク経由で行う方法があります。それぞれの方法は次のとおりです。

## ローカルでの運用

直接CPUブレードに対して診断する方法について説明します。

### ● 必要なもの

- ー システム診断(ローカル用)サポートディスク

システム診断(ローカル用)サポートディスクは、装置に添付されている「ROM-DOSシステムディスク」と「システム診断FD(ローカル用)」を使って作成します。詳細は「ROM-DOSシステムディスク」(102ページ)を参照してください。

- ー 外付けフロッピーディスクドライブ(USB接続)
- ー USB接続キーボード
- ー ディスプレイ

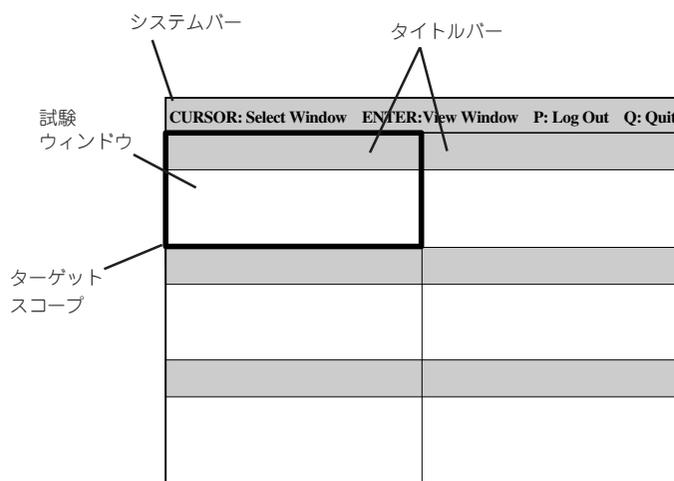
### ● 起動方法

以下に起動方法の概要を示します。

1. 診断対象となるCPUブレードのシャットダウン処理を行った後、CPUブレードの電源をOFFにする。
2. 診断対象のCPUブレードに対し、外付けフロッピーディスクドライブ(USB接続)とUSB接続キーボード、ディスプレイを接続する。
3. 「お客様用システム診断(ローカル用)サポートディスク」を外付けフロッピーディスクドライブ(USB接続)にセットする。
4. CPUブレードの電源をONにし、システム診断を起動する。

5. システム診断を開始する。

システム診断を開始します。約3分で診断は終了します。  
診断を終了するとディスプレイ装置の画面が次のような表示に変わります。



- システムバー: 試験中に時間などの情報が表示されます。診断終了後には、ウィンドウを操作するキーの説明が表示されます。
- タイトルバー: 診断の項目が表示されます。エラーを検出したときは、このバーが赤色表示になります。
- 試験ウィンドウ: 診断の経過または結果が表示されます。
- ターゲットスコープ: 試験ウィンドウを選択するためのカーソルです。キーボードのカーソルキーで他の試験ウィンドウに移動します(ここで<Enter>キーを押すと、選択したウィンドウに対する確認ができます。もう一度、<Enter>キーを押すと元の画面に戻ります)。

システム診断でエラーがあった場合は、タイトルバーが赤色に変化し、エラーに関する情報が赤色で表示され、警告を促します。エラーメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

6. 外付けフロッピーディスクドライブ(USB接続)から「お客様用システム診断(ローカル用)サポートディスク」を取り出す。
7. CPUブレードの電源をOFFにする。
8. 手順2で接続した外付けフロッピーディスクドライブ(USB接続)とUSB接続キーボード、ディスプレイを取り外す。
9. CPUブレードの電源をONにする。

以上でローカル運用でのシステム診断は終了です。

# ESMPRO/DeploymentManagerでの運用

ESMPRO/DeploymentManagerを使ってネットワーク経由で診断する方法について説明します。

## ● 必要なもの

- － システム診断#1 FD (DepMgr用)
- － システム診断#2 FD (DepMgr用)

これらのフロッピーディスクは、「EXPRESSBUILDER」と「ROM-DOSシステムディスク」を使って作成します。詳細は「サポートディスク (DepMgr用)の作成」(117ページ)を参照してください。

- － ESMPRO/DeploymentManager (以下、「DepMgr」と呼ぶ)

## ● 起動方法

以下に起動方法を示します。あらかじめDepMgrのユーザーズガイドを参照してDepMgrをインストールしておいてください。

1. 133ページの「ESMPRO/DeploymentManagerをインストールしたサーバの環境設定」を参照して、共有フォルダの作成などを行い環境設定をすませる。
2. DepMgrを起動する。  
詳細はDepMgrのマニュアルを参照してください。
3. [ツール]メニューの[イメージビルダー起動]を選択し、[フロッピーディスクイメージの作成]を選択する。
4. イメージファイル名(任意)を入力し、システム診断#1 FD (DepMgr用)をフロッピーディスクドライブにセットする。
5. システム診断#1 FD (DepMgr用)のフロッピーイメージファイル作成終了後、再度、[フロッピーディスクイメージの作成]を選択する。
6. イメージファイル名(任意)を入力し、システム診断#2 FD (DepMgr用)をフロッピーディスクドライブにセットしてイメージファイルを作成する。

### 🔑 重要

手順4で指定したイメージファイル名とは違うファイル名を指定してください。

7. [シナリオ]メニューの[新規登録]を選択し、[HW設定]タブを選択する。
8. 手順4、6で作成したイメージファイル名を選択し、シナリオ名(任意)を入力する。  
シナリオが登録されます。

### 🔑 重要

イメージファイルの選択では、手順4で作成したイメージファイル、手順6で作成したイメージファイルの順に2つのイメージファイルを選択してください。

9. DepMgrのメインメニューで対象となるCPUブレードを選択し、右クリックで表示されるメニューから[シナリオ割り当て]を選択する。

10. 手順8で登録したシナリオ名を選択し、シナリオを割り当てる。
11. 対象となるCPUブレードの電源をOFFにする。
12. 対象となるCPUブレードを選択し、右クリックで表示されるメニューから[シナリオ実行]を選択する。  
自動的にCPUブレードが起動し、システム診断のシナリオが実行されます。数分で診断は終了します。
13. シナリオが終了したら、実行結果を確認する。

### ● 実行結果の確認

実行結果は、以下のフォルダに「TDLOG.TXT」として記録されます。確認してください。

共有フォルダOFFTOOL¥CPUブレードのMACアドレス上位3バイト¥下位3バイト¥DIAG



対象CPUブレードのMACアドレスを確認するには、DepMgrのメインメニューで対象となるCPUブレードを選択し、右クリックで表示されるメニューから[プロパティ]を選択してください。

確認する内容は次のとおりです。

- 「I-CISER didn't pass normally!!」と表示されていないこと
- 構成情報の確認では、「Device/Card Information」に表示されている、ハードディスクやPCIカードの構成情報が、CPUブレードの実際の接続状態と差異がないこと
  - CONNECT:            接続されていることを示す
  - NOTCONNECT:       未接続であることを示す
- 試験結果の確認では、「Test Result」に表示されている、各試験結果に異常(FAIL)がないこと
  - PASS:               試験が正常に終了したことを示す
  - FAIL:                試験が異常であったことを示す
  - NOTTEST:           試験が実行されなかったことを示す



「Test Result」の「IDE」が「NOTTEST」になっている場合は、ハードディスクが正しく取り付けられていないことが考えられます。ハードディスクの取り付け状態を確認してから診断をやり直してください。

以上でESMPRO/DeploymentManagerを使ったシステム診断は終了です。

# システムマネージメント

システムマネージメント機能はベースボードマネージメントコントローラ (Baseboard Management Controller: BMC) による通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。

本装置では、以下のいずれかの方法によって、システムマネージメントを起動します。

- CPUブレードに外付けフロッピーディスクドライブを接続して起動する場合  
「ローカルでの運用」を参照してください。
- LANを使ってネットワークから起動する場合  
「ESMPRO/DeploymentManagerでの運用」を参照してください。

## ローカルでの運用

外付けフロッピーディスクドライブを接続して起動する場合の方法について説明します。

### ● 必要なもの

システムマネージメント機能をローカルで運用する場合には、以下を準備してください。

#### ー システムマネージメント(ローカル用)サポートディスク

システムマネージメント(ローカル用)サポートディスクは、装置に添付されている「ROM-DOSシステムディスク」と「システムマネージメントFD(ローカル用)」を使って作成します。詳細は「ROM-DOSシステムディスク」(102ページ)を参照してください。

#### ー 外付けフロッピーディスクドライブ(USB接続)

#### ー USB接続キーボード

#### ー ディスプレイ

### ● 起動方法

システムマネージメント(ローカル用)サポートディスクを外付けフロッピーディスクドライブ(USB接続)にセットしてCPUブレードを再起動すると、フロッピーディスクからシステムマネージメントが起動します。

### ● 機能

システムマネージメントを起動すると、以下の機能を実行できます。

#### ー ファームウェア管理情報の表示

BMC(Baseboard Management Controller) に関する情報を表示します。

#### ー システムマネージメントの設定

BMCによる通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定、通報テストを行います。

各設定については、起動後のヘルプを参照してください。

# ESMPRO/DeploymentManagerでの運用

LANを使ってネットワークから起動する場合の方法について説明します。

システムマネジメント機能のうち、システムマネジメントの設定については、ESMPRO/DeploymentManager(以下、「DepMgr」と呼ぶ)を使ってネットワークから実行できます。各種の設定はMWAで作成したコンフィグレーションファイルの内容に従って自動で設定します。

## ● 必要なもの

DepMgrを使ってシステムマネジメントの設定を実行する場合には、以下のものを準備してください。

### ー システムマネジメントFD(DepMgr用)

システムマネジメントFD(DepMgr用)は本体に添付されている「EXPRESSBUILDER」の「マスターコントロールメニュー」と「ROM-DOSシステムディスク」を使って作成します。詳細は「サポートディスク(DepMgr用)の作成」(117ページ)を参照してください。

### ー MWA

システムマネジメントの設定で使用するコンフィグレーションファイルを作成します。

システムマネジメントFD(DepMgr用)を作成後、このFD内に「CSL\_LESS.CFG」コンフィグレーションファイルを作成します。



- コンフィグレーションファイル作成時に設定したコンピュータ名の先頭の3文字 + MAC Addressがコンピュータ名となります。

- 次の設定は初期値の設定を使用してください。

- ー IPアドレス
- ー サブネットマスク
- ー デフォルトゲートウェイ

### ー ESMPRO/DeploymentManager(別売の有償ソフトウェア)

## ● 起動方法

以下に起動方法の概要を示します。あらかじめDepMgrのユーザズガイドを参照してDepMgrをインストールしておいてください。

1. 123ページの「ESMPRO/DeploymentManagerをインストールしたサーバの環境設定」を参照して、共有フォルダの作成などを行い環境設定をすませる。
2. DepMgrを起動する。
3. [ツール]メニューの[イメージビルダー起動]を選択し、[フロッピーディスクイメージの作成]を選択する。

4. イメージファイル名(任意)を入力し、システムマネージメントFD(DepMgr用)をフロッピーディスクドライブにセットする。

イメージファイルの作成が行われます。

#### 重要

- システムマネージメントでは、同じフロッピーディスクイメージを2度実行する必要があります。
- 各イメージファイル名は、違いがわかるようなファイル名を指定してください。

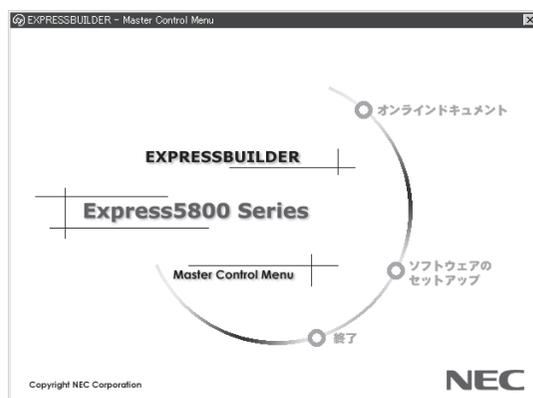
例: 「BMCFG1」、「BMCFG2」と指定するなど。

5. [シナリオ]メニューの[新規登録]を選択し、[HW設定]タブを選択する。
6. 手順4で作成したイメージファイル名を選択し、シナリオ名(任意)を入力する。  
シナリオが登録されます。
7. 対象となるCPUブレードを選択し、右クリックで表示されるメニューから[シナリオ割り当て]を選択する。
8. 手順6で登録したシナリオ名を選択し、シナリオを割り当てる。
9. 対象となるCPUブレードの電源をOFFにする。
10. 対象となるCPUブレードを選択し、右クリックで表示されるメニューから[シナリオ実行]を選択する。  
自動的にCPUブレードが起動し、システムマネージメントの設定が実行されます。

# EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、ブレードサーバを保守・管理するための各種ユーティリティディスクを作成するための機能や、ブレードサーバ用の各種ソフトウェアが格納されたCD-ROMです。

Windows 95/98/Me、またはWindows 2000、Windows NT 4.0が動作しているコンピュータ上でEXPRESSBUILDERをセットするとメニューが表示されます。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。



ヒント

システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラ等から実行してください。

¥MC¥1ST.EXE

マスターコントロールメニューから各種ユーティリティディスク(サポートディスク)の作成や各種ソフトウェアのインストールができます。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックで現れるポップアップメニューから行います。



重要

CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

# サポートディスク(DepMgr用)の作成

ESMPRO/DeploymentManager(以下「DepMgr」と呼ぶ)を使用してユーティリティを実行するために必要なサポートディスク(DepMgr用)を作成します。DepMgrを使ったユーティリティの実行については、それぞれのユーティリティの説明を参照してください。



ここで作成されるディスクは、ESMPRO/DeploymentManagerと合わせて使用するためのものです。ブレードサーバに直接コンソール(USBキーボードやUSBフロッピーディスクドライブ、ディスプレイ装置)を接続して起動するサポートディスクは、ローカル用を使用します。ローカル用のサポートディスクは、前述の「ROM-DOSシステムディスク」から作成することができます。

## ● 必要なもの

- ESMPRO/DeploymentManagerをインストールしたサーバ  
ESMPRO/DeploymentManagerのインストールおよび使用方法についてはESMPRO/DeploymentManagerに添付の説明書を参照してください。
- 3.5インチフロッピーディスク(6枚)
- 添付のROM-DOSシステムディスク
- 添付のEXPRESSBUILDER

## ● 作成手順

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をESMPRO/DeploymentManagerをインストールしたサーバにセットします。Autorunで表示される「マスターコントロールメニュー」から、[ソフトウェアのセットアップ]—[サポートディスク(DepMgr用)の作成]の順にクリックします。ここで表示される以下のサブメニュー項目を選択しクリックします。以降は画面の指示に従ってサポートディスクを作成してください。

作成したフロッピーディスクに以下の名前を書いたラベルを貼り付けてください。

- システム情報のバックアップの場合: システム情報のバックアップFD(DepMgr用)
- システム情報のリストアの場合: システム情報のリストアFD(DepMgr用)
- システム診断#1の場合: システム診断FD#1(DepMgr用)
- システム診断#2の場合: システム診断FD#2(DepMgr用)
- システムマネージメントの場合: システムマネージメントFD(DepMgr用)
- 各種BIOS/FWのアップデートの場合: 各種BIOS/FWのアップデートFD(DepMgr用)

# ソフトウェアのセットアップ

ブレードサーバ自身にインストールする「本体用バンドルソフトウェア」とブレードサーバを管理するコンピュータ(管理PC)にインストールする「管理PC用バンドルソフトウェア」があります。

後述の説明を参照して、インストールしてください。

## MWA ～Management Workstation Application～

MWA(Management Workstation Application)のインストールおよび起動方法、セットアップについて説明します。



MWAのセットアップと運用に関する詳細な説明については、EXPRESSBUILDER CD-ROM内の以下のパスに格納されているオンラインドキュメント「MWAファーストステップガイド」を参照してください(EXPRESSBUILDERの「マスターコントロールメニュー」からも開くことができます)。

CD-ROMドライブ:¥mwa¥mwa\_fsg.pdf

機能と操作方法に関する詳細な説明については、MWAのオンラインヘルプを参照してください。

---

### MWAについて

MWAは、ネットワーク上から管理PC(ESMPRO/ServerManagerが動作しているコンピュータ)を使用して、システムをリモート管理するためのアプリケーションです。Express5800シリーズの運用管理を行う管理者の負担を軽減させることができます。

---

### 通信方法

MWAを使用する管理PCがLAN、ダイレクト(シリアルポート)のいずれかの方法でExpress5800シリーズと接続されていればMWAを使ったリモート管理ができます。



- シリアルポート接続は前面シリアルポート2のみ使用可能です。LAN接続はLAN1ポートのみ使用可能です。
- モデム接続は実行できません。本装置ではサポートされていません。

## MWAの機能

MWAはExpress5800シリーズのシステムBIOSやベースボードマネージメントコントローラ(BMC)と接続することにより以下の機能を実現しています。

### ● リモートコンソール機能

Express5800シリーズのPOST実行画面およびMS-DOSのブート中の実行画面を管理PC上のMWAのウィンドウから見るすることができます。またこの間、Express5800シリーズを管理PCのキーボードから操作できます。

### ● リモートドライブ機能\*

管理PC上のフロッピーディスクドライブまたは、フロッピーディスクのイメージファイルからExpress5800シリーズを起動することができます。

\* LAN接続時のみの機能です。

### ● リモート電源制御

管理PC上のMWAからリモートで、Express5800シリーズに対して以下の電源制御が行えます。

- － パワーON/OFF
- － パワーサイクル(パワーOFFの後、しばらくしてパワーON)
- － リセット
- － OSシャットダウン\*

\* 本コマンドをサポートしているESMPRO/ServerAgentがExpress5800シリーズ上で動作している場合のみの機能です。

### ● リモート情報収集

管理用PC上のMWAからリモートで以下の情報を収集することができます。

- － システムイベントログ(SEL)
- － 保守交換部品情報(FRU)
- － センサ装置情報(SDR)
- － BMC設定情報

### ● ESMPROとの連携\*

Express5800シリーズのBMCからの装置異常などのSOS通報を受信すると通報内容を解析して、ESMPROのアラートログへ自動的に登録します。

\* LAN経由のみの機能です。

## 動作環境

MWAを動作させることができるハードウェア/ソフトウェア環境は次のとおりです。

### ● 管理PC(インストールするコンピュータ)

- ー コンピュータ Windows 98、Windows Me、Windows NT 4.0、Windows 2000、またはWindows XPで動作しているコンピュータ
- ー メモリ OSの動作に必要なメモリ+5MB以上
- ー ハードディスクの空き容量 5MB以上
- ー LAN接続時 TCP/IPネットワーク  
ESMPRO/ServerManager Ver.3.3以上がインストールされていること
- ー ダイレクト接続時 RS-232CクロスケーブルまたはRS-232Cインタリ  
ンクケーブル

### ● MWAでリモート保守する装置

Express5800シリーズに添付のユーザズガイドにMWAの記載がある装置。対象装置には、RomPilot、BMC、SMCのいずれかが搭載されています。本装置にはBMC (IPMI Ver.1.5)が搭載されています。

## MWAのインストール

MWAを使って本装置を管理するには、管理PC側にMWA Managerをインストールしてください。

### ● MWA Managerのインストール

MWA Managerは、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って管理PCにインストールします。

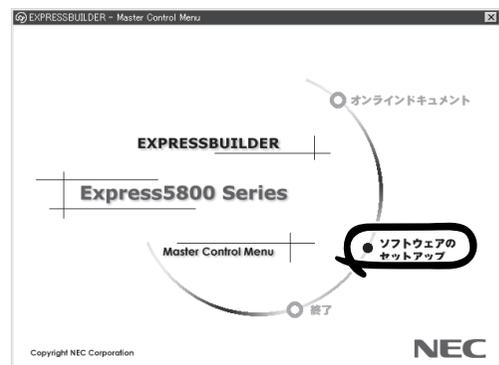
1. Windows 98、Windows Me、Windows NT 4.0、またはWindows 2000を起動する。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。  
Autorun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

3. [ソフトウェアのセットアップ] – [MWA]の順にクリックする。



右図の画面上で右クリックしてもポップアップメニューが表示されます。

4. [MWA Manager]をクリックする。  
MWAのインストーラが起動します。  
インストーラの指示に従ってインストールしてください。



---

## コンフィグレーション

コンフィグレーションに必要なものは次のとおりです。

- **EXPRESSBUILDER CD-ROM**
- **設定情報**

コンフィグレーションはMWA側とExpress5800シリーズ本体側の両方が必要です。MWA側ではリモート管理するExpress5800シリーズの本体台数分の設定情報が必要です。

Express5800シリーズ装置側のコンフィグレーションは「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからExpress5800シリーズを起動して「システムマネージメントの設定」で行ってください。

詳細な手順については「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内にある「MWAファーストステップガイド」またはMWAのオンラインヘルプを参照してください。

## ESMPRO/ServerManager

詳細は、添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のインストラクションガイドを参照してください。

### エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールで保守センターに自動通報することができます。

本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。



アプライアンスサーバモデルでのエクスプレス通報サービスの利用については保守サービス会社にお問い合わせください。

## オンラインドキュメント

オンラインドキュメントはHTML文書で記述されています。オンラインドキュメントを参照する前に、あらかじめご使用のオペレーティングシステムへHTMLブラウザをインストールしておいてください(Windows 2000などの場合、OSをインストールすると自動的にインターネットエクスプローラがインストールされます)。また、HTML文書がブラウザに正しく関連付けられていないとファイルが開けないときがあります。そのようなときは140ページを参照して関連付けを再設定してください。



オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAcrobat Readerがインストールされている必要があります。Acrobat Readerがインストールされていないときは、はじめに[ソフトウェアのセットアップ]の[Acrobat Reader]を選択して、Acrobat Readerをインストールしておいてください。

# ESMPRO/DeploymentManagerをインストールしたサーバの環境設定

以下の各種ユーティリティをESMPRO/DeploymentManager(以下、「DepMgr」と呼ぶ)を使ってネットワーク経由で実行するためには、DepMgrをインストールしたサーバの環境設定が必要です。

- システム診断
- オフライン保守ユーティリティ
- システムマネージメント

ESMPRO/DeploymentManagerのインストールおよび使用方法についてはESMPRO/DeploymentManagerに添付の説明書を参照してください。

## ユーティリティ実行用アカウントの登録

ESMPRO/DeploymentManagerを使用して各種のサポートディスク(DepMgr用)を実行する場合、ユーティリティ実行用のアカウントである「offtooluser」(すべて小文字)というユーザーが必要です。

「コンピュータの管理」→「ローカルユーザーとグループ」で「ユーザー」を選択し、登録してください。offtooluserのパスワードは「offtoolpw」(すべて小文字)とし、「ユーザーはパスワードを変更できない」と「パスワードを無期限にする」を選択してください。またofftooluserの「所属するグループ」は、Usersグループとしてください。

ユーザー名: offtooluser  
所属するグループ: Users  
パスワード: offtoolpw

新しいユーザー

ユーザー名(U): offtooluser

フルネーム(F):

説明(O):

パスワード(P): \*\*\*\*\*

パスワードの確認入力(C): \*\*\*\*\*

ユーザー(お次回ログイン時のパスワードの変更が必要)(M)

ユーザーはパスワードを変更できない(S)

パスワードを無期限にする(W)

アカウントを無効にする(B)

作成(E) 閉じる(O)



アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。

# ユーティリティ実行用共有フォルダの作成

DepMgrを使用して各種のサポートディスク(DepMgr用)を実行する場合、ユーティリティ実行用のOFFTOOL(すべて大文字)という共有フォルダが必要です。

フォルダOFFTOOLをDepMgrをインストールしたサーバに作成し、フォルダのプロパティ画面の「共有」タブで、共有名をOFFTOOL(すべて大文字)としてください。また「共有アクセス許可」画面で、共有フォルダのアクセス許可をユーザーofftooluserのみフルコントロールとしてください。

共有フォルダ名: OFFTOOL

共有名: OFFTOOL

アクセス許可: offtooluserのみフルコントロール

